HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	國民社會の観点よりみた都市機能　第一巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1963-07-12
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77524
Type	manuscript
Note	『鈴木榮太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
File Information	I030_0122S36.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

22

NOTE BOOK

國民社會の觀点よりみた

都市機能

一 都市農村の機能論

研究

(第二卷)

200字 46枚

昭和二十六年二月

十六日

政治的結社の機能は同時に支配の機能をもち、経済的結社の機能は同時に搾取の機能をもっているのは人間社会のさいしょからのよくない癖だと考えられる。

最初の一国の支配の機関が搾取の機関が集合して貴族的結社を形成しまた搾取の中心的機関の中心的機関の中心的機関をも兼ねて貴族すなわち貴族であるが、今では多くの人がそれ

を強いられたが、比較的その生
活費は決の移住者へ
の補償費と
合
口長の口長のための口長の政治を
政策とする民主的政策からみて
は政治の中心は口長にまかせる
べき
数さ[illegible]
[illegible]
と高橋に支部の仕事を要求意
しかしこの
首府は口長と共に金
口にあまねく分散させようとする
今都の才能にはもちろんあるが
原政の力能もかなりの
所在地に年に書類その一つ

全国の中心的機関が東京に集まるように東京の過大なる国土あるが、東京の中心都市が中心なる中心的結節的機関が皆東京の都心に集まっているように東京の混乱の原因である。中心的結節的機関は東京都市内の中心部より分散して市内の各地域に分散する。これによって東京をはその等用の混乱より救はれるであろう。

（結論）

（結論に続く）

（結論に続く）

であるこの事物をはじめ的結合おいて空間的分散されている一大の集中した民主的産業用に対する動員で比較的動員は動員以外の日本人の社会に生活へ向って来たのである。これは日民社会に対する省庁の中心的機関が分散されるようになった。省庁の中心的一部の中心地域は中心地域の各地区に分散されている。

東京都内の各地区に分散されている。

⑥ 結論

以外敬遠されつゝあり、中央集権的な
政策の外、隆者は日星に中枢者は
移動しとゝ移動しつゝあり。
中日の都市は職場と極度に
住宅が四囲に作られ
とゝ移動の移動つゝ此方式は意義
小職味さつゝあり。機関とその
経営が同市に設置されることを
制を徹底事は
都市が拡大して限れまなく
巨大都市は最早の都市計画に
あらず。力みかえった都市の中への虚

※住居と職場が分離したことが近代の思(運)の根源がある。

住居と中心街や機関が市松模様をなして全市を覆い、とこれ都心がなく、とこにも都心がある様な作りそこそ現代の民主的都市（それが都市となって都市は個人主の本来の職住を無くす(?)）にふさわしい。

△王城でなくて市庁とか停車場を中心におくことを民主的なものに思い、先ー[illegible]る人とするか、なんでも中心か、なければ[illegible]のはなはだ[illegible]十万信の一断をなし美観を失うとするか。

都市[illegible]百万の都市では尼居な都市の都心はむしろ[illegible]のある伝統である。

△これ[illegible]古い五都城[illegible]

都市の伝統の生[illegible]

藝は[illegible]

人[illegible]中心[illegible]

の[illegible]の中心[illegible]

は[illegible]

[illegible]

東京は[illegible]

[illegible]

[illegible]

けれはならない。都市は人に見せる

かつては古い和歌の伝統の特質
をもっていたようで、
都は常すはらしく大規模に装飾する
ことを重しとし、街つ筋毎にわさ
わざ飾の場と物語の場を作る。
は都市ではなく独の人に
このほんの海岸にしっとすばらし
い恵みである。民を仏都市の都市
美は三人を猫間の美しさを見た
ずきである。どこにも中人のない
都市こそ民を口にふさわしい都市
である。

なぜ第一とかくべきではなくかに
侵つよい都市とするるか第一である。

[illegible]

(三)

[illegible]

[illegible]

(二)

東京の場合

[illegible]

中部地方

[illegible]

(三)

[illegible]

2. 市

[illegible]

指定構成

(一)

[illegible]

けれどもそれでなくては事業の一大企業
依は地方中小都市の中小企業体をも下請
工場として判断しているようで互いに集中する
農村の青少年がどんなに形で存在しているか
かなかは與え知ってないで存在するのであろうか
事業は全ての資源と労働力の上に新都市的国家的に
並んで発展して無尽蔵に発展するのである。事業を
に気を配り現状を回して行ってあるように。
即ち中央都市の大産業の統制の傘下に轉
落された機会の地方産業、個性的地
方産業の衰亡。

作戦本部と戦場

（この章は日本農業の研究（一）に入れる）

大砲の音も砲声も聞こえない静かな落ちついた
一室で平常に変らぬ起居の生活をし
ている幹部の人々が各地の野戦場
からの報道に基づきおもむろに策
を練ってこそ適正な兵の運用を
はかり、よい戦果をおさめ得るものかも
知れない。と同時に大きな違いがあるのは
と感じなくて向ったと
そこでは血なまぐさい激戦場の情熱
の実感などはほとんど感じない。戦場は
合理的な因果の進行として理解され
どんな合理的な手順の進行によってよい戦果が

（四）我々の
兵員数、兵器の種類及び量、兵員の
疲労度、地形用地形、それらのものの
計算の上に合理的に強弱勝敗の
判断を下すのが作戦本部の仕事で
あるが、し兵力の合理的判断をはかる
作戦本部の行動が精神的に野蛮
場の情劇の跡を南下して来り
又は理論は八方を
の意義を全般的に表現するもの
それが発揮し正当であり推着な一つ。
然し私が不本意な同の中程
部の上に五つ理論は戦場は
徹夜や空腹や攻撃や連続のために疲労困憊と
なられるかに追及されて、よ。作戦本部の仕
事は正に計算と操作である。◎
兵が
難かついて、将兵の作戦
は恐怖と盲従と努力と作
激情の連続である。凡そ人間
戦っている将兵の体験に同く
ものは、作戦本部の幹部の
指揮・作戦及び操作の中におのずかな一般に
大きな同じであるが
国家の統治活動の精神や実相の考察
解について、それと同様の事が言えるか
国家統治についての理解も正確や政府

下部経済構造の上部より理解する事がどれ程その意味有
るのか。又それ以外に経済の構造を上部より実証
的理解が一つどんな意味をもつか、国
じてある。私は国家の構造や上部
それ経済活動から国民法律に接続する最も
部から調査している。之れは従来の
色々の天下の学者の国家の理解とはさえ
全く異っている。従来は殆ど全部或
中央破壊された国家を上部の基盤
上部より理解の根拠の中している。これは作戦
幹部に現存の意義をもたせんと
するものと同じである。

戦争は敵と味方の間の闘争である。
戦争の人間生活における意味は敵と味方の接触点における闘争の中に
現象する。
統治の正しい意味は統治者と被統治者との間の接触点における闘争に
よりとうすべきである。
戦争は日本と日本との間の外国関係の
ごとく降伏または統治者との間
の外国、君主と君主との間の外国と解
決、国民と国民との間の内戦
または、第一線の兵と兵との血みどろ
の闘争
の命令はほとんど直接に明のごとし。

田舎に小さな工場を作って働いている工員の家は貧乏で苦しい。この日が疎開されて工場のやっている。

第一線の兵士と兵士の乱中として疎開された小さな戦争は、はげしくなってきたとしたらかもしれないが、思えば戦争は一つの企業であるとしてみれば戦争は一つの時間として成立する。総事の戦争は私たちのものではなかったか。戦争をその当局経営者の作戦指令部より眺めて考えなかったか。口の食べ物まで強制されて一つの生活を行に強いられ、命をかけて戦いよく戦って、陸軍にはカイセンする外に活路なく、兵士の作戦を中心としては簡単に解決されるかもしれない。

学徒動員の敵軍、若者は戦争動員の犠牲の同にあって呼吸して敵陣に向って兵を考えて見よ

強事は
日宗と我宗と王者の立場からのみ
考へられて来た藤原思想の学問が
王者の為にのみ成立つ事を強いられ
て来たからである。

日民族の歴史と文化の中心が
東京に結集され飛鳥の集まりつつ
ある事実は集まりつつ
なる場合です。この場合、
別の場合は飛鳥
あれ飛鳥の動向の
それは移動した他に移動すると
移動の人数は
御内の数字です。

人口の増大と共に[illegible]
人口の都市への集中と消費[illegible]
以上の事情から[illegible]
とくに[illegible]混合[illegible]人口[illegible]
要求も[illegible]
混合[illegible]
様態[illegible]
しての[illegible]
[illegible]

都市は集中して[illegible]変化の経済[illegible]
と共にその近代的[illegible]集中して[illegible]
って行く性格のものである文化の[illegible]
[illegible]
性格[illegible]
全体の中で[illegible]
ていよいよ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
は東京にはすくなく人口が[illegible]人
の[illegible]混乱が[illegible]
つくあるので[illegible]

ここでは特異の問題は三様刊しかない。

第一、産業的職場の場合

職場

第二、都市住民の住居、家庭としての都市

都市は世帯である。

第三、社会的交通機関（交通、運輸）

の施設

都市は一つの機能である故に都市は職場と世帯より成立しているともいへる。

都市の本来の機能から考えれば第三は特殊な職場である。

機関の車庫、運送業者、倉庫、

となったのは当然である。車庫の

機関車、電車、自動車、飛行機

都市は自由に成長の機会

少数の業は特色へ

考へられる。

第三のもの

都市は構成要素

機関車、職場、行程

市民、世帯、及び都市本

来の機能の交通、物資、

運搬機関

の三種は

都市には世帯

の多数から若干の文化に関する特色

機能の車庫、運送業者、倉庫、

となったのは当然である。車庫の

機関車、電車、自動車、飛行機

都市は自由に成長の機会

少数の業は特色へ

考へられる。

第三のもの

都市は構成要素

機関車、職場、行程

市民、世帯、及び都市本

来の機能の交通、物資、

運搬機関

の三種は

都市には世帯

の多数から若干の文化に関する特色

この三つの動かし難いよう
前年はとうていできぬ時代であった。
火と電気と水と飛行機の発達は
戦争の様子に対して無数の
前年の迷信を考えれば
私は失った安穏幽閑の全部の
補償を考へる。
の所置は唯一の機関の復興
で沿ひ出来た復興の復興
を考へる。
前年の午年の春から家中の
苦心の都市を建設した。

従来の暗号

暗号である。今までは4つの信号所が
傍受し、その中に機関に加はり
之れ無線線が設定されて
また、あるいは之をしては
大本の状態が何であったか
ということはなかった。当時の一家中人が状態を見た
何つとはね才のなし、しかし全く戦場
中人引く機関がその時代にあって
いる。然し前者の事件以来は当たら
困難な段階を出なかったよ。
東京の通信を担当する通信機関と
居住する無線線について、之の機械

無しこの[illegible]
かくあるは人口は[illegible]
不景と生活[illegible]一定して
事であり[illegible]
人口は[illegible]
[illegible]
混乱して[illegible]
[illegible]
又[illegible]混乱する[illegible]
もありは[illegible]
機関の機能を[illegible]
民は全く[illegible]
は混乱し[illegible]
機関[illegible]
に関する機関は[illegible]

[illegible]道理を[illegible]とするのである #
東京に集まって居る機関は皆然り
結果は機関であるから其の他
多くの人の役目の照らしよって
かくの如く機関が各業務に於ける
良い役所をかえるので一致しており
る。又東京の市内の一地域に集
まるのも勤勉さからである。日本
へはアメリカでも都人の老化補等
事が大へん[illegible]である。巨大
都人を合併せしめるのは三都市
の混乱を防止する一案と考へている
[illegible]これを変え機関と呼ぶ。特に人の集合の[illegible]

都市機関は周辺に関連を有する。機
関係の深さの機能と上下の機能は関
つくる。
今日では都市と農村とには
とらえられない位置上の補強
囲の広がりは市で、その外は小さな力
機能の分布の金の流出と機能の一　実
集中による上積は
凡そ人口を集める為に住居の
続いて来る不足は事一部
市は人口が集中して便利さを保つ
且つ住宅を考える人々の機関がある

都市へ①集中論は古い。都市域
都市の基とのよくない。便利であるが
民生活の都市は都市へはず
更に新しい都市計画をうるには
都市へ安からぬようにする事がよいで
家は住居であるか。住居は古いか
ての家中への住居では　私はか
の住居は職場に直接しつつよ
市で発達しつつ中心の都心に都市
ては機関の移転は国際に経営
又住居と生の関係は保てるもの
五。都市の機関が皆まって働き

都邑の起源

然し吾々は各々の最古の時代、
の様な國家と云ふ事を考へると一寸
東京は、亦かつてなし
でない。其の数凡
いると云ふので、其の事を
限りなく増す
發展をさせる所に、社会化し分化して
先進国を得して
東京の人口の充實
都市は東京
一種の事
的政國家
か發達の民衆へは人かは

の居住する所の周囲に存するならば
比ニ頗る少数への新時代の生ずる
にされハ、都市の形成すると
都ハ云ハしかなし、都市の
に於ける其の都市か多く、若干に（大きな）
權國かあり、其の國は同じ
皇室の住所となり、又は經地
大帝の權力の下に存在して
る都市」と云ふ。力の及ぶ下に（大國又は小國が集まる）
一方は大くと連結して
て云ふ都市、何れも、何十
續いて土地の所有より別

多くの機会が過ぎ去ってしまったことは
これは東京その他の地域内に人口集中
を抑止しようとする
けれども東京の混乱がまたに
一つ加わったことは
東京の過大とそれに伴う混乱
と危険が飛躍的に高まったことに対し
て、人口集中の制限を直ちに考えなく
ではならない。
しかしこれは決して考慮しなくも
しかしこれは考慮。
内乱混乱と危険は人の生活の基盤
が根本的に揺ぐ事態を生じ

(共)

市、どんな都市にすべき民主的
の千万都市にすべきか、新しい
都市の姿は。

東京の長所短所を伝えよ。東
京駅に集まってくる人は
ではない。中小都市
分散して一点に集まる人の流
をさけ混乱をさけなければならない。
し地域に事務所に集中
し分散の不幸をなくする
人が都に集まる機会をつくる。
とも市内の各地域に分散する
とんな大量の人口も機関も
産業なしに都市の構へ

(ロ) 又業務上で文化的高度の要求を満足させる満足感を感じる。

(ハ) 時がおとるか、人の生活の基盤は出来ないと人口の量に応じなければならない。生活の基盤を考えることに専念して生活を物質的に満足させる方法を考えねばならない。

(ニ) 現在一日の時間を考えると、(ロ)を満足感を感じる。(ハ)は満足感を感じる。

(ホ) 千万都市は当人達の便宜上便利である。

(ヘ) 然し便宜上便利を感じる。

(ト) 都市連絡は交通機関によるとして千万人でも二時間で都市はどこへでも行けるようになる。

政治の中央と地方

政治の中央と地方との関係は全般的に
あまり明白でないが地方は
やはりどちらかというと中央の
要求に応じて自治体が設置
されたり廃止されたりする
傾向の強いものが多く
地方の自治は余りよくなかった
傾向が強いようである。
しかし地方の自治体が
大きい場合、
中央に対してもある程度
強い発言権を持つ場合が
多い。
中央の方針に保護を与え
中央に対してもある程度
強い発言権を持つ場合が
多い。

[illegible]